



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市京町4丁目3-28  
(滋賀県厚生会館1階)  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会会長  
辻 正人

### 滋賀県遺族会 新体制発足

## 新会長に辻氏 青年部出身で初

滋賀県遺族会は、5月16日に理事会および定時評議員会を開催し、松浦友一会長の任期満了に伴い、新しい会長に辻正人副会長を選出しました。青年部出身の初めての会長就任となります。

今年度は役員改選期にあたり、会長のほか、新たに5人の副会長を選出し、令和8年度からの新体制がスタートしました。

### 会長就任あいさつ

#### 孫世代が遺族会を支える覚悟で

滋賀県遺族会会長 辻 正人



このたびの第250回理事會におきまして、滋賀県遺族会の会長に御推挙いただき、会長の重責を担うこととなりました。

終戦81年を迎えた今年度は、昨年の終戦80年を区切り、県遺族会からの脱退、あるいは市・町の遺族会自体を解散する流れに拍車がかかっており、会長として組織の舵取りは大変難しい

者遺族にとって、引いては日本国民にとって大きな問題ではないでしょうか。

80数年前、国家存亡の機に、命をかけてこの国の形態を守った先人がいたので、今日の平和は、先人の貴い犠牲の上に成り立っている。その事実を風化させないことは遺族会活動の根幹で、背骨です。この役割は個人のみでは果たすことができません。組織力が必要です。

そこで、現会員のみなさまに改めてお願いいたします。高齢だから、会員が減少するから戦没者遺族としての役割が消えるわけではありません。「継承」という課題の本質に向き合ってください。どうか戦没者の孫世代が中核となった現遺族会を支えるという自覚のもと、組織継承のために何が必要か御判断いただき、実行に移していただきますことを切にお願いいたします。

さて、戦争を知らない世代が9割超を占める昨今、「日本は悪い国なのか」、未来の子供たちの素朴な疑問に、この先答えられる大人がどれだけいるのでしょうか。この事実、私達戦没

### 副会長就任あいさつ

滋賀県遺族会副会長

澤本 長俊



このたび、伝統ある滋賀ある遺族会副会長として大役を仰せつかりました。若輩の身ではございますが、諸先輩方が築いてこられた当会の歩みを汚さぬよう、誠心誠意、職務に邁進する所存です。

私は、戦没者の「孫の世代」にあたります。戦争の悲惨さや、肉親を亡くした底知れぬ哀しみを直接体験したわけではありません。しかしだからこそ、祖国を思い、家族の幸せを願いながら尊い命を捧げられた英霊への深い感謝と、不戦の誓いを決して風化させてはならないという強い危機感を抱いてまいりました。

会員の減少、支部の解散など、遺族会を取り巻く環境は大変厳しく、また我々孫の世代への世代交代という大きな転換期を迎えています。戦争の記憶が遠くない現代において、私たち孫「団体」として、戦争の風化防止の一翼を担う活動を今後も推進していけるよう、引き続き御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

の世代、そしてさらにその下のひ孫の世代へと「記憶のバトン」を繋いでいくところ、今を生きる私たちの最大の使命であり、英霊への何よりの報恩である

と考えます。諸先輩方がこれまで守り続けてこられた遺族会の理念をしっかりと受け継ぎ、孫の世代としての視点と行動力を活かして、未来へと

繋がる新しい一步を踏み出してまいります。会員の皆様の温かいご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

### 滋賀県遺族会副会長

富田 博明



先日の役員会におきまして、副会長に就任させていただきました。元々浅学非才な私に、伝統ある滋賀県遺族会の副会長が務まるか不安なところはありますが、精一杯副会長を支え、会員の皆様のために、そして英霊のために、努力させていただきます。さて、先の大戦から85

年、そして終結の夏から81年、今日の平和国家は、計り知れないほどの大きな、尊い犠牲の上にございませ。ここに改めて、戦争の犠牲となられたご英霊や、犠牲となられた皆様に、心からご冥福をお祈りいたします。その上で、県民の皆様とともに、悲惨な戦争を繰り返さない強い決意とともに、この平和を守り抜くことを、我々遺族から率先しなければならぬと考えます。

しかし、今、遺族の高齢を直接知る世代が少なくなる中で、戦争の記憶をどのようにかついでに伝えていくかが、大きな課題となっております。今後、私たち孫世代が活動の主体を引き継ぎ、遺族会活動を通じて、恒久平和の希求と英霊顕彰を続けていくためには、孫世代のメンバーや活動の趣旨に賛同いただく人を増やしていくことが大切です。そのためには、遺族会メンバーが減少していく中でも、次世代育成を目的とした戦跡地訪問活動や、戦争

### 滋賀県遺族会副会長

北川 健二



このたびの役員改選により副会長に就任いたしました。身の内、昭和13年に、中国の安慶・揚子江の船上で亡くなった祖父を持つ、遺族の一人であります。まず、これまでの遺族会活動を支えていただいた皆様に、心より深く感謝申し上げます。戦後81年目を迎え、戦争

の悲惨さを伝える「語り部」育成の取り組みが大切であると考えます。81年間、日本では新たな戦争は起きず、新たな戦没者遺族は発生していません。しかし、平和は決して当たり前のものでなく、皆で守り続けていかなければならないものと考えます。会員の皆様におかれましては、引き続き、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

(2面に「副会長就任あいさつ」続き)

滋賀県遺族会副会長

吉島 利博



このたびは会長推薦で、令和8年8月9日年度の副会長を受けました。私も戦争遺児で、年齢も85歳を過ぎ、そのような

器ではありませんが、会員皆様のご協力を得て努めて参りたいと思います。

戦後80年余りの歳月がたち、戦争の悲惨さが記憶から忘れかけられつつある。今、戦没者遺族の戦中・戦後の体験の記録を伝え、次世代と共に平和について考える「語り部事業」が現在

各方面で行われており、とても大切な事だと思えます。

また、現在遺族会員の高齢化等により、会員数も年々減少しており、次世代の皆様に、語り部事業を通じて遺族会の必要性を伝え、国家のために一命を捧げた戦没者のご英霊に対

し、慰霊を捧げると共に二度と私達のような思いをさせたくない、切実な強い願いを伝える必要があると思えます。

最後に、恒久平和構築のために、我々も努力を重ねて参りたいと思います。



滋賀県遺族会副会長

甲斐 聡美



このたび遺族会の副会長に選任されました。まずは、これまで遺族会をお支えくださいました皆様方に、心より深く感謝を申し上げます。

戦後81年、この国であった負の歴史が薄れゆく中、英霊の方々の思いを背負って、日本の国を、社会をお支えくださいました諸先輩方の活動は強固な柱となつて、平和を守りぬいてこられました。私は英霊の孫として、何をすべきなのか、

どのように次世代に繋げていくべきなのかと錯誤致しております。

教育のあり方も、戦争への思いも多種多様な世の中になりました。その中で、私たち遺族会が出来ることを見出し、いかなくはないけません。ご英霊の方々の命が無駄になつてはいけません。その事を胸に、努力して参りたいと思えます。どうぞご支援、ご協力の程、宜しくお願いたします。

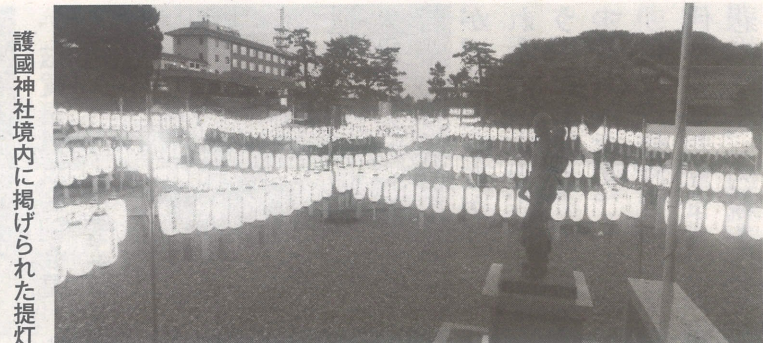
### 「みたままつり」献灯のお願い

滋賀県遺族会は、過去の痛ましい戦争の犠牲となり、今日の平和と繁栄の礎となられたご英霊に感謝し、御霊の安らかならんことを祈念して、昭和52年から毎年「みたままつり」を開催してきました。本年も8月13～15日、護國神社境内(彦根市)において、「第50回みたままつり」を

開催します。遺族会員以外の方も、この趣旨にご賛同いただける方はどなたでも献灯いただきますようお願い申し上げます。

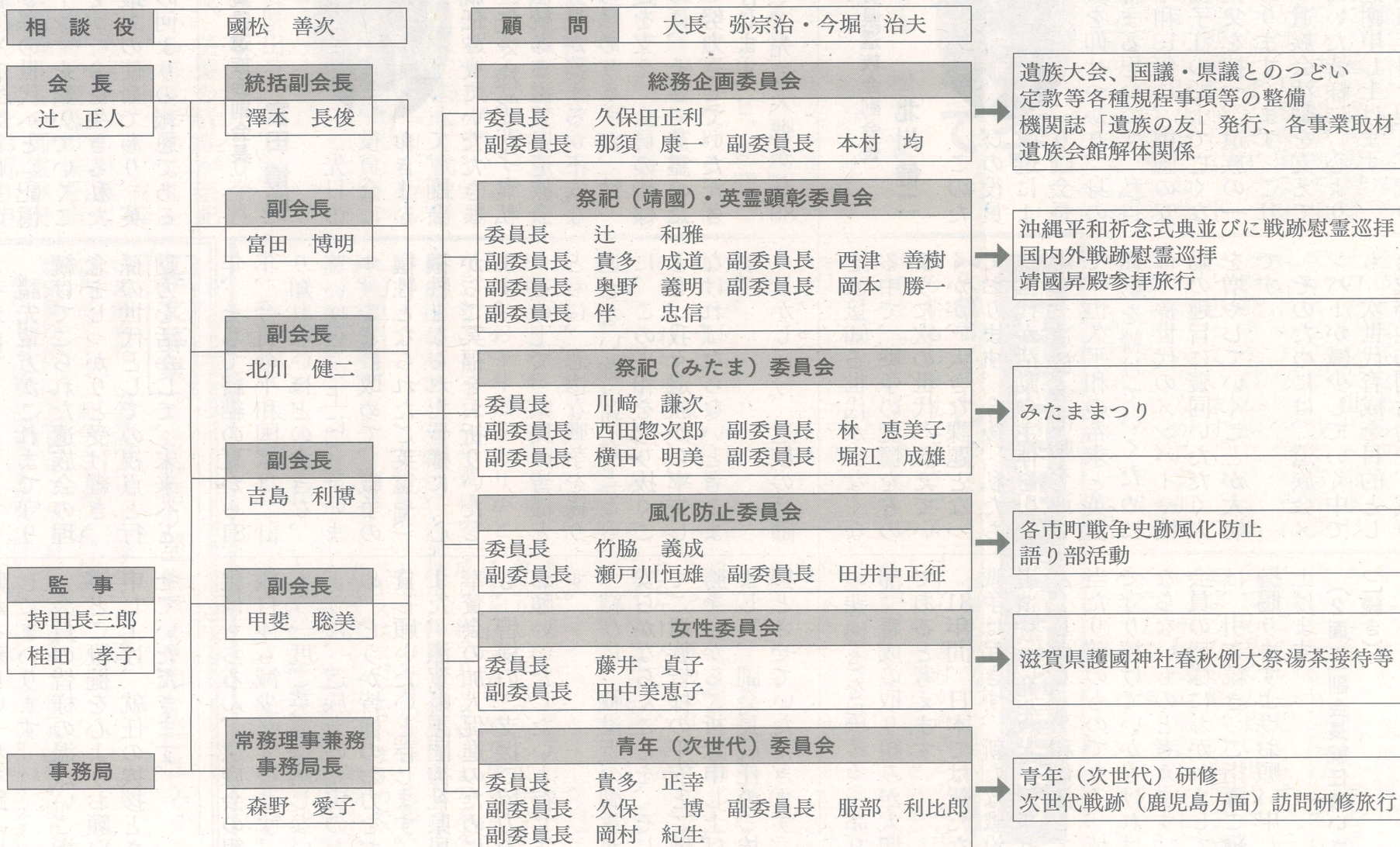
ご承知のとおり、戦後80年が経過し、戦争の悲惨さや苦しい体験をした年代の人たちが減少し、悲惨な戦争の記憶が忘れ去られようとしています。遺族会員の

(みたま委員会)



護國神社境内に掲げられた提灯

## 滋賀県遺族会 組織図 (令和8年5月16日～)



### 沖繩「近江の塔」戦没者追悼式典 および戦跡慰霊巡拝に参加して

日野町遺族会 小椋啓一

去る5月6日から8日にかけて「令和8年度沖繩『近江の塔』戦没者追悼式・平和祈念式典」に初めて参加させていただきまして、これまで何度か沖繩を訪れたことはありましたが、戦跡を巡拝したことはありませんでした。

初日、那覇空港に到着すると、あいにくの少雨の中ではありましたが、南風原町「慰霊祈和の塔」、西原

町「西原之塔」で慰霊祭が行われました。西原町の慰霊祭では「呼びかけ」もさせていただきました。私の大叔父・次郎が、昭和19年7月に南太平洋沖で戦死しています。祖父の平八も近衛兵として出征しました

が、生前の祖父からは戦時中の話をあまり聞いておらず、今になって、もつといろいろな話を聞いておけばよかつたと思うことが多いです。

2日目は青空の中、摩文仁の丘「近江の塔」で、戦没者平和祈念式典が開催され、沖繩県の関係者の皆さま、滋賀県の東副知事はじめ多数の県会議員、栗東

です。

市・近江八幡市の市議会議員・市会議員の皆さまに参列いただきました。午後からは、魂魄之塔、栄里之塔で慰霊祭が行われました。最終日は、那覇市内にある護國神社に参拝させていただきました。3日間の旅を無事に終えることができました。

達の亡くなった戦地の国々を慰霊巡拝してきました。今年も、知覧方面電信室を見学し、串良平和公園慰霊塔、元鹿屋特攻航空隊にて慰霊祭を終えました。遠くから見る桜島は美しい山に見えますが、麓の道路を走ると、今にも大きな岩が落ちそうでした。桜島港からフェリーで鹿兒島へ。万世特攻平和祈念館から指宿温泉泊。3日目、開聞岳の比島戦没者慰霊碑で慰霊。

### 鹿兒島知覧方面戦跡 慰霊巡拝に参加して

米原市遺族会 松居あき子

2月の戦跡慰霊巡拝は、毎年海外への慰霊巡拝でしたが、今年も鹿兒島知覧方面の戦跡慰霊巡拝になりました。参加される皆様も80歳を過ぎた人が多く、今年の6月で83歳になる私も足

の方が悪く、皆様に迷惑をかけるかと思いつつ、巡拝に参加させていただきました。

米原をお昼過ぎにバスで出発して、大阪南港へ。フェリー「さんふらわあ」での船舶泊は女性11人で一室。皆さんなかなか眠れないまま志布志港に到着。2泊3日の慰霊巡拝ですが、1日目は船の中で、2日目から戦跡慰霊巡拝という日程です。

平成から令和の時代、私たち遺族は、父や伯父さん



市・近江八幡市の市議会議員・市会議員の皆さまに参列いただきました。午後からは、魂魄之塔、栄里之塔で慰霊祭が行われました。最終日は、那覇市内にある護國神社に参拝させていただきました。3日間の旅を無事に終えることができました。

残されてありました。その中に、滋賀の青年2人も含まれています。昭和20年4月、沖繩に米軍が上陸し、その時に降伏していった特攻隊の若者たちや広島と長崎の原爆投下で、多くの人が亡くなることもなかったでしょう。職業軍人の罪は重く思います。

特攻隊の皆様、戦友と靖國の桜の下で会っています。私の父もミヤンマーのナンシャンで戦死して、今は靖國に眠っていると思

い、毎年参拝に行きます。特攻隊の皆さん、また靖國で会いましょうね。知覧方面戦跡慰霊巡拝に参加された皆様方、色々お世話になりました。



きました。各慰霊祭で静かに祈りを捧げる時間は、今ある平和な日常が、多くの尊い犠牲の上に成り立っていること

### 「知覧訪問 体験から心に 一つでも残してほしい」

次世代活動委員会 久保博

昨年先の大戦から80年が経過し、私たちは平和の尊さを改めて感じております。しかしながら、残念ながら今なお世界各地においては、紛争が続いていま

す。ロシアによるウクライナ戦争をはじめ、イラン・イラク戦争（アメリカ合衆国介入）、パレスチナ・イスラエル戦争、シリア内戦等で、多数の民間人が犠牲になっており、いまだに悲惨な戦争が繰り返され、多くの人が命の危険にさらされています。このよう

な戦争は決して容認されるものではなく、早期収束を心より願っております。大東亜戦争においては、わが国では310万人余りの人が、戦火・飢餓・被爆等により亡くなりました。改めて亡くなった方々に思いをよせ、慰霊の念を抱く次第です。家族のこと、国のことを思いながら散華された英霊に対し、追悼の意を表します。今日の平和と繁栄があるのは、亡くなられた方々の犠牲の上にあることを決して忘れることがあつてはなりません。

滋賀県遺族会において、戦争遺児を中心に、英霊顕彰・慰霊巡拝等、この国で二度と戦争が起こらないよう、戦争体験・戦争被害の悲惨さを、次世代に語り継ぐ活動を行ってまいりました。しかしながら、戦後生まれの人が9割以上を占めるようになり、時代と共に日本が戦争をおこなったことや、戦争があつた記



のを改めて知る機会となり、当たり前に迎える朝、家族と過ごす時間、何気ない日常、それらがどれほど尊く、かけがえのないもの

のかを深く感じる3日間となりました。最後に、今回の事業を企画いただきました皆さま方に厚く御礼申し上げます。

憶が薄れていることも事実です。そのなかでも、私たち滋賀県遺族会青年部は、次の世代に戦争の悲惨さ、平和の大切さを訴える活動の一環として、次世代戦跡訪問研修を毎年実施しております。今回私も参加しました。

各市町の協力の下、小中高生と引率者を含め総勢41名が、3月27日から29日に、特攻が行われた鹿兒島県知覧を訪問しました。これは滋賀県遺族会独自の取り組みとして24年前から実施しており、「命の尊さ」「戦争の悲惨さ」「平和の大切さ」を身をもって知るため、現地の知覧特攻平和会館などを見学しています。

平和な世界を目指し、二度と戦争を起ささない世の中にするための研修として、申良地下壕第一電信室での語り部の話を聞く等を体験、学習してもらいます。この研修で、心一つでも残してくれば、次世代への研修の意味があつたと考えます。

最後になりましたが、戦争の悲惨さを風化させないため、これからも次世代戦跡訪問研修を継続し、後世に引き継ぎたいと考えます。

